

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和6年9月2日（月） 10：00～12：05
- 2 場所：県庁3階大会議室
- 3 出席委員名（計14名、五十音順、敬称略）
金平 美和子、神田 敏和、谷野 愛子、津嶋 悟、中山 芳一、
西村 こころ、服部 剛司、平田 国子、牧 明奈、光岡 美恵子、
三好 年江、山口 哲史、横山 由佳、吉田 康文

【議事概要】

<議題>

- 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2020」数値目標の実績報告等について
- 議題2 県内保育所等の現状について
- 議題3 令和6年度の少子化・子育て支援等について
- 議題4 「岡山いきいき子ども・若者プラン2025」（仮称）について
- 議題5 審議会の新設について

- 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2020」数値目標の実績報告等について
- 議題2 県内保育所等の現状について

(子ども未来課長)

資料1及び資料2に基づき説明

○発言要旨

(委員)

資料1を見ると、多くの取組をしているにも関わらず、出生数が下がり続けている現状がある。私自身、妊娠・出産を経験して、本当はもっと子どもが欲しいと思っても、もう一人は難しいかなと思うことが多い。それはつわりの大変さといった体力的なことに加えて、大変な時に支えてくれたり相談できたりする地域のサポートや受け皿がないということがある。自分を支えてくれると思える場所がたくさんできたら、出生数が変わってくるのではないかと思う。

(委員)

産前産後の保育の利用として、妊娠中のつわりが大変だったり、上の子がいて産後に赤ちゃんのお世話をするのが難しかったりする時、上の子を保育園に預けられる制度がある。私は日々多くの母親と接する機会があるが、保育園に預けたくても、満員で断られることが多いと聞く。制度自体はありがたいのに、利用できない状況なので、改善してほしい。

(子ども未来課長)

資料2の3ページに、待機児童として数値に表れない児童について記載している。例えば育児休業中などで、国の定義としては待機児童でなくても、保育を必要としている人がいる。保育士を確保し、改善に向けて尽力してまいりたい。

(委員)

保育士が足りていない現状がある一方で、保育園としては保育士を確保したいが、いざ確保すると次年度以降保育士が余ってしまったという経営的な問題もある。そういった問題を行政とも協力し、解消したいと思っている。

また、保護者が特定の保育園を希望し、その保育園に入れなければ自宅で世話をしようという方もおり、園によって格差があるということも懸念しているところだ。

地域型保育事業が増えてきているが、0～2歳までしか預かれないため、3歳以降の預かり先について保護者が困ったり、経営する立場からしても、今後非常に厳しくなってくるだろうと危惧している。

(子ども・福祉部長)

先程の委員の発言で、地域で子育てのサポートがあればうれしいという意見があった。気持ちの面でのサポートや、家事育児を代行してくれるような生活面のサポートなど、具体的にどのようなことをより良いサポートだと思っているか、参考に教えていただきたい。

(委員)

出産後、支援センターなど色々と回って見させていただいたが、私自身がまた利用したいと思ったのは、子どもや自分を認めてくれる場所だった。「よく来てくれたね、また来てね」と自分を大切にしてくれる声かけをしてくれたり、手探りで子育てをしている中、子どもの遊びを企画してくれて親の学びともなり、子育てで迷っている時に指針になるようなことを教えてくれる場所だ。そういう場所が増えたらと思う。

(委員)

フリースクールだったり子ども食堂だったり、子どもに対する色々な取組がある。そういう情報がもっとわかりやすく家庭に届けばいいと思う。

(委員)

資料1の3ページに、保育士・保育所支援センターが関わった保育所等への就職者数は436人だと記載がある。このうち、県北に就職した人はどのくらいになるか。

(子ども未来課長)

直近の令和5年度でいえば、県全体で60名の就職につながっているが、その内訳については手元に資料がないため、後ほど個別に回答させていただきたい。

(委員)

県北の保育士確保は難航しているのか。

(委員)

そうだ。

議題3 令和6年度の少子化・子育て支援等について

(子ども未来課長、健康推進課長、労働雇用政策課長、人権・男女共同参画課長)

資料3に基づき説明

○発言要旨

(委員)

2点聞きたいことがある。1点目、資料1ページの子どもの意見の聴取で、アンケートを取ると説明があつたが、具体的にはどのように進めるのか。

2点目、資料2ページに記載されている結婚の“壁”対策として行っているおかやま縁むすびネットで、成婚数が289組とあるが、後追い調査は行っているのか。

(子ども未来課長)

子どもの意見聴取については、次期プランの内容をかみ砕いて子ども向けのわかりやすい資料を作成し、パブリック・コメントを行うタイミングに合わせて、主な項目を選択式にしてアンケートを行いたいと考えている。

縁むすびネットで成婚後の後追い調査は行っていないが、必要性も含めて考えていきたい。

(委員)

子どもの意見を聴くというのは難しく、率直で素直な意見を聴けるような環境を用意するのが大事だと思う。県内に、子どもの育ちのための活動や体験活動を提供し、子どもの主体性を大事にしている NPO がある。NPO に限らずそういった専門家の方もいると思うので、連携しながら進めていけたらいいのではないかと思う。

後追い調査については、仕事柄、DVや離婚してひとり親になる事例をよく目にするので、そういったケースを作ってしまったら逆効果だと思いがちになった。最近はマッチングアプリで出会って結婚するというのも多くなっている。民間のサービスと似ているサービスを行政が行う時、行政だからこそそのサポートや行政がやることの意義をしっかりと示すことができれば、利用者側の活用につながると思う。

(委員)

子どもの意見聴取や、子どもの主体的な参画の推進というのは全国的な流れだが、意見を聴き取ることに以上、どのように反映させるかということが課題だ。子どもは本質思考かつ水平思考が強いので、様々な事情の上で検討している立場からすると、実際に聴いた後どうするのかというのが難しい。子どもの権利条約における子どもの意見表明権についても同様で、子どもの意見をなんでも取り入れるというように誤解されがちだが、そうではないので。

(子ども未来課長)

仰るとおり、意見を聴くだけで終わってはいけないと思うので、聴いた後どのように反映させるか、内容に応じて検討していきたい。

(委員)

自分が考えたことが形になるというのは市民性を育むという意味でも、一つの大きな成功体験になりそうなので、うまくいけばいい。

(委員)

子どもの意見聴取について、対象者は小・中・高とのことだが、就学前の子どもの声というのも大事だと考えている。そういった年齢の子どもたちの声を聴き取り、施策に反映していくための方策があるか伺いたい。

(子ども未来課長)

アンケートの対象は小学生から高校生だが、就学前の子どもについても、県民向けのパブリック・コメントで保護者に代弁してもらう形で意見をいただきたいと思っている。

(委員)

東京に若い人が転出してしまい、地方で子どもが生まれにくい。県はできることはなんでもやるという心意気で取り組んでいるが、それでも子どもの数も、結婚数も増えていないのはなぜだろうかと考えると、少子化の問題が子どもや若者自身に伝わっていないからではないかと思う。東京一極集中の是正と、社会教育の推進をお願いしたい。

(子ども未来課長)

様々な取組をしている中、成果がなかなか出ていないという意見については、真摯に受け止めている。一方、やっていなければもっと数値が悪かったかもしれないとも考えている。ライフスタイルや価値観の多様化、将来への経済的な不安など、様々な要因が考えられ、少しずつでも対応・対策していかないといけない。何をすれば一番効果的なのか、委員の皆様の意見も聴きながら探っていき、これからもできることに取り組んでまいりたい。

議題4 「岡山いきいき子ども・若者プラン2025」(仮称)について

(子ども未来課長)

資料4に基づき説明

(委員)

3グループに分かれ意見交換

○発言要旨

(グループ1)

・次期プランの策定では、子どもの参画に力を入れていこうということで、学校や

教育現場等と連携して、子どもたちがワクワクするような未来が描ける、自分たちが考えたことが形になったという体験につながるようなプランにしてもらいたい。

- ・次期プランの文章表現について、いくつか気になる点がある。例えば、夢を育むというところでは、絶対夢を描かなければいけないのではないかと思わせないように、ボランティアの記載でも、誰かに感謝されるためというよりは、自分がやったことが社会に反映できる、社会を変える力があると思えるような、ポジティブな表現の仕方に変えるとよい。
- ・社会と教育がうまく融合できるような体験プログラムの提供などを推進できるとよい。
- ・保育士の働き方について、数時間からでも勤められるような、働き方の選択肢の幅を持たせられるとよい。
- ・生き方が多様化する中で、子どもを生み育てることがリスクになると捉える人も一定数いるため、そういった考えも受け止めながら、(出産・子育て)環境を整備する視点も大切である。
- ・子どもの意見聴取について、子どもたちが感じたことを率直に教えてほしいのだということが伝わるように、アンケートを実施する前段階で何かあればよいのではないか。また、任意回答だと、意見を届けたいと思っている人からしか回答がないのではないかと思うので、やり方を工夫できたらよい。
- ・公的な支援も民間の支援も全くなく、産科がなくなってしまったりする地域がある一方、都市部では充実していて、地域格差が生まれている。支援が少ないところに対して、情報やサービスをどう届けるかを大事に考える必要がある。
- ・子育て支援策の一つとして、「家事支援」に取り組んでほしい。家事は得手不得手が大きく、このようなサービスがあると、子育てを頑張れる親が増えるのではないかと思う。

(グループ2)

- ・次期プランについて、2つのプラン(県いきいき子どもプランと県子ども・若者育成支援計画)が統合されることから、非常に幅広く様々なことが記載されており、分かりにくいし、細かく決めすぎて自由度がないようにも思われる。国、県、地域がそれぞれやるべきことを主体的に考えていけるような幅を持たせてもよいのではないか。
- ・「保育者の人材確保と質の向上」について、保育園によって質に差があるのではないかと思われるので、保育者の価値観のすり合わせや園のニーズに沿った研修をしっかりとしてほしい。
- ・保育施設、学校、放課後児童クラブ等について、すべて行政の担当窓口が違うこと

から、横のつながりや縦のつながりをしっかりしていかないと、格差が見えてくるのではないか。

- ・子どもの意見聴取について、子どもが素直に発言できるような場が必要ではないかと思う。例えば、地域の子育て支援拠点や保育園、学童など、子どもがリラックスして本音を言っているようなところで出てきた声を反映できるとよい。また、(未就学児の声を聴く方法として) 保護者の方の意見を(パブリック・コメントで)聴くということもあったが、そういった施設のスタッフの意見を聴くといったことも考えてはどうか。
- ・よい取組をしていこうとしているし、してもいるが、必要な人に必要な情報やサービスが届いておらず、サービスが使われていないということが考えられるため、情報発信の方法などをきめ細かに考えていく必要がある。
- ・発達障害について、保育施設などが感じていることと、保護者が感じていることが違ったりしているので、専門機関を使って早期に対応できるような方法を考えていく必要がある。

(グループ3)

- ・令和5年度実施「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」では、高校生の9割が結婚したいと思っているが、実際に結婚できると考えている高校生は6割に減少するという結果になった。自信が持てないのか、社会への不安なのか、制度の問題なのか、様々なことを考慮して、結婚したい人が結婚できる世の中をつくる必要がある。
- ・先日の子ども家庭庁の発表では、4人に1人がマッチングアプリで結婚しているということである。教育面ではSNSの怖さを伝え、怪しいアプリは使用しないよう注意喚起している中、県が行う結婚支援のメリットは安心感があるという点である。安心感を売りにして、多くの方に利用していただけるようなシステムを作っていくことが大事だ。
- ・コロナ禍でICTが普及したことで、学校に行くことは難しいけれど、勉強がしたい子どもには、学校に行かなくてもオンライン授業で対応できるなどの恩恵があった。ICTやオンライン授業を引き続き活用していくことで、不登校の子どもたちの学びにも生かせるのではないかと思う。
- ・県は「教育県岡山」を掲げているが、教育の水準を上げるには、福祉も大事だ。子どもまんなか社会のため、岡山の原点に戻り、「福祉県岡山」も掲げて取り組んでほしい。
- ・里親の推進と併せて、支援も重要であるが、里親支援センターについてあまり触れられていないように思う。センターの立ち上げに伴い、児童養護施設に置いている里親を支援するソーシャルワーカーは廃止する流れになっており、これがうまく

形にならないと、今後厳しくなってくる。里親のもとへ行く子どもが増えるのは望ましいことだと思うが、里親になじめない子どもたちも多く存在する。また、里親ではなく施設がいいという子ども（特に高年齢児）もいるので、里親委託が全てではないということも踏まえて、社会的養護が必要な子どもたちの意見も聴いてほしい。

議題5 審議会の新設について

(子ども未来課長)

資料5に基づき説明

(委員)

意見なし

以上